

委託事業実施内容報告書
平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

公益財団法人千葉市国際交流協会

1. 事業名称

千葉市および近隣地域における「生活者としての外国人」に対する日本語教育・社会参加支援体制整備事業

2. 事業の目的

生活者としての外国人に対する生活・社会参加に根差した日本語教育の機会拡充と内容充実を図るとともに、市民の多文化理解促進により、包括的な支援体制整備を行う。

3. 事業内容の概要

- ・日本語教育の取組—対話型の活動推進により、外国人の日本語力の向上と地域社会への参加意欲促進を図る。
- ・支援者研修—社会参加促進への理解と参加型対話型学習活動の実施を後押しする目的の研修を行うことにより、支援の資質向上と新たな支援者確保を図る。
- ・地域における多文化理解促進と成果普及—外国人住民が地域活動に参加しやすくなるよう市民への啓発と活動主体との調整連絡をおこなう。
- ・関係機関のネットワーク化—取り組みの検討や実施においてつながった関係機関と会議体を作ることにより、課題解決のための体制整備をおこなう。

4. 事業の実施体制について

千葉市区役所、保育所、保健福祉センター、警察、消防局(消防署)、公共職業安定所 NPO等、外国人と接している(または今後接する可能性のある)機関と会議体で情報共有をし、また、実際に連携して事業を実施した。千葉市国際交流協会の日本語学習支援をはじめとする登録者と協働で、日本語クラスや多文化理解促進事業を展開した。登録者個々が持つネットワークも活用することで、共生理念の普及を図り、外国人の社会参加促進のための体制を整備を図った。また、日本語教育空白地帯の若葉区において、関連部署等と連携して、日本語クラスを実施した。

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	神吉 宇一	長崎外国語大学
2	檜木 かおり	千葉市役所
3	新倉 涼子	千葉大学
4	萬浪 絵理	千葉市国際交流協会
5	鈴木 恵美子	千葉市国際交流協会

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成27年5月22日(金) 13:00~16:00	3時間	千葉市国際交流プラザ	神吉宇一 檜木かおり 新倉涼子 萬浪絵理 鈴木恵美子	1. 事業概要(事業計画・事業内容・事業運営方針)の説明 2. 質疑応答・意見交換
2	平成27年10月23日(金) 13:30~16:00	2時間 30分	千葉市国際交流プラザ	神吉宇一 檜木かおり 新倉涼子 萬浪絵理 鈴木恵美子	1. 実施済み内容報告および今後の実施計画説明 2. 質疑応答・意見交換
3	平成28年2月12日(金) 13:00~16:00	3時間	千葉市国際交流プラザ	神吉宇一 檜木かおり 新倉涼子 萬浪絵理 鈴木恵美子	1. 事業実施報告 2. 事業評価 3. 質疑応答・意見交換

6. 取組についての報告

取組1:日本語教育の取組

(1)体制整備に向けた取組の目標

- ・生活に密着した様々なテーマに関して日本事情を観察し自国と比較するという活動を通して、外国人の日本への理解と内省が促進される。
- ・スピーチをしたり対話セッションに参加したりすることを通じて日本語の運用能力が培われる。
- ・自分の考えや体験を発信するという行為により、対話に参加する日本人の多文化理解が進み、また、日本で生活する外国人の苦労や不安への共感が生まれる。日本人の意識にそういった変化を起こすことで発信者が取組に意義を感じる。
- ・主要な日本語クラスにおける対話型学習活動をボランティア・学習者ともに不安なく行うことができるよう、文法文型に関する知識を提供できるクラスを別途設けることによって、体制を整える。

(2)取組内容

- ・「テーマでつながる日本語クラス」
 - ①テーマに関する調べ学習やディスカッションや専門家による講義
 - ②外国人住民による、国事情や日本との比較に関するスピーチ及び日本人とのグループセッション
 - ③スピーチやセッションの内容を成果物としてまとめる活動各テーマにつき、以上を組み合わせて実施する。
- ・「対話中心グループクラス」
各学習者の関心に合わせた会話クラス
- ・「初級文法クラス」
使用頻度の高い基礎的な表現を支援者とともに学習・練習する。
- ・プロジェクト会議
協働メンバーの声を聞き、日本語クラスのあり方と今後の方向性を検討する。

(3)対象者

- ・地域在住外国人、テーマに関心のある地域住民、支援者

(4)参加者の総数 145 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 77 人

【出身・国籍別内訳】

中国	30人	インドネシア	3人	・アメリカ3人、イギリス1人、エジプト1人、カナダ3人、ジャマイカ1人、台湾8人、タジキスタン1人、チリ1人、ニュージーランド1人、パキスタン1人、バングラデシュ2人、フランス1人
韓国	4人	タイ	2人	
ブラジル	0人	ペルー	0人	
ベトナム	4人	フィリピン	8人	
ネパール	1人	日本	1人	

(5) 開催時間数(回数) 71時間 (全31回)

(6) 活動の具体的内容

テーマでつながる日本語クラス

上段:学習者数
下段:支援者数、一般参加者数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年6月20日 (土) 9:30~12:30	3	千葉市国際交流 プラザ	16人 10人	第1期(葬儀)ー①	葬儀の流れ説明と話し合い、スピーチの準備。	萬浪絵理	小野聡、山田由美子、保谷和美、福井美幸、赤松佳美、李琳、深井久美
2	平成27年6月27日 (土) 9:30~12:30	3	千葉市国際交流 プラザ	9人 13人	第1期(葬儀)ー②	学習者のスピーチと質疑応答、小グループに分かれて交流。	萬浪絵理	小野聡、山田由美子、保谷和美、福井美幸、越桐一統、赤井勲、金田洋子、八角幸雄
3	平成27年7月4日 (土) 9:30~12:30	3	千葉市国際交流 プラザ	4人 6人	第1期(葬儀)ー③	スピーチ動画につける要約の作成。エンディングノートについて。活動報告の作文。	萬浪絵理	小野聡、山田由美子、張燁
4	平成27年9月25日 (金) 13:00~16:00	3	千葉市国際交流 プラザ	7人 3人	第2期(防犯)ー①	防犯に関する講話と内容の共有。防犯に関する話し合い、スピーチの準備。	萬浪絵理、千葉中央警察署	小野聡、平澤昭男、斎川桂子、園田真一
5	平成27年10月2日 (金) 13:00~16:00	3	千葉市国際交流 プラザ	9人 15人	第2期(防犯)ー②	学習者のスピーチと質疑応答、小グループに分かれて交流。	萬浪絵理	小野聡、平澤昭男
6	平成27年10月9日 (金) 13:00~16:00	3	千葉市国際交流 プラザ	4人 1人	第2期(防犯)ー③	スピーチ動画につける要約の作成。防犯に関するミニドラマ作り。	萬浪絵理	小野聡、平澤昭男
7	平成28年1月18日 (月) 9:30~12:30	3	千葉市国際交流 プラザ	10人 7人	第3期(学校の役割、親の役割)ー①	学校や親の役割に関する講話と内容の共有。講話を受けてテーマに関する話し合い、スピーチの準備。	萬浪絵理、村上健治	高岡雅子、高木敏子
8	平成28年1月25日 (月) 9:30~12:30	3	千葉市国際交流 プラザ	8人 19人	第3期(学校の役割、親の役割)ー②	学習者のスピーチと質疑応答、小グループに分かれて交流。	萬浪絵理	高岡雅子、高木敏子
9	平成28年2月1日 (月) 9:30~12:30	3	千葉市国際交流 プラザ	9人 8人	第3期(学校の役割、親の役割)ー②	スピーチ動画につける要約の作成。防犯に関するミニドラマ作り。	萬浪絵理	高岡雅子、高木敏子

計 27時間 158 人

グループ会話クラス

上段:学習者数
下段:支援者数

1	平成27年7月2日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	8人 2人	グループ会話クラス1期 ー①	「好きなこと」「好きなもの」「得意なこと」などについて、グループで話す。	萬浪絵理	平澤昭男、山田由美子、高岡雅子
2	平成27年7月9日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	8人 3人	グループ会話クラス1期 ー②	テーマ「私のゆめ」でDST(デジタル・ストーリーリー・テリング)をつくる	萬浪絵理	平澤昭男、山田由美子
3	平成27年7月16日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	4人 2人	グループ会話クラス1期 ー③	テーマ「私のゆめ」でDST(デジタル・ストーリーリー・テリング)をつくる	萬浪絵理	平澤昭男、山田由美子
4	平成27年7月23日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	5人 3人	グループ会話クラス1期 ー④	テーマ「私のゆめ」でDST(デジタル・ストーリーリー・テリング)をつくる	萬浪絵理	平澤昭男、山田由美子
5	平成27年7月30日 (木) 10:00~12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	7人 2人	グループ会話クラス1期 ー⑤	「私のゆめ」発表	萬浪絵理	平澤昭男、山田由美子、高木敏子
6	平成27年11月11日 (水) 10:00~12:00	2	若葉保健福祉センター	10人 3人	グループ会話クラス2期 ー①	「好きなこと」「好きなもの」「得意なこと」などについて、グループで話す。	萬浪絵理	高岡雅子、高木敏子、鈴木恵美子

7	平成27年11月18日 (水) 10:00～12:00	2	若葉保健福祉セ ンター	8人 3人	グループ会話クラス2期 ー②	「私のゆめ」についてグループで話 す。	萬浪絵理	高岡雅子、 高木敏子、 鈴木恵美子
8	平成27年11月25日 (水) 10:00～12:00	2	若葉保健福祉セ ンター	6人 0人	グループ会話クラス2期 ー③	「私のゆめ」発表の準備	萬浪絵理	高岡雅子、 高木敏子、 鈴木恵美子
9	平成27年12月2日 (水) 10:00～12:00	2	若葉保健福祉セ ンター	4人 2人	グループ会話クラス2期 ー④	「私のゆめ」発表	萬浪絵理	高岡雅子、 高木敏子、 鈴木恵美子
10	平成27年12月9日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	5人 2人	グループ会話クラス2期 ー⑤	「私のゆめ」発表	萬浪絵理	高岡雅子、 高木敏子、 鈴木恵美子

計 20時間 87人

初級文法クラス

上段:学習者数
下段:支援者数

1	平成27年4月28日 (火) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流 プラザ	6人 12人	初級文法1期ー①	動詞のリストアップ、基本動詞の絵 カード練習、「～たい」の導入・練習、 動詞のグループ分け	萬浪絵理	
2	平成27年5月12日 (火) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流 プラザ	11人 10人	初級文法1期ー②	辞書形、「～ことができます」、「～ま えに～」の会話	萬浪絵理	
3	平成27年5月19日 (火) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流 プラザ	10人 11人	初級文法1期ー③	て形、「～てくださいますか」、「～て います」、「～てから」の会話	萬浪絵理	
4	平成27年5月26日 (火) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流 プラザ	8人 11人	初級文法1期ー④	ない形、「～ないでください」「～と思 います」「～ないと思います」の会話	萬浪絵理	
5	平成27年6月2日 (火) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流 プラザ	10人 11人	初級文法1期ー⑤	た形、「～たことがあります」の会話	萬浪絵理	
6	平成27年10月7日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	7人 3人	初級文法2期ー①	動詞のリストアップ、基本動詞の絵 カード練習、「～たい」の導入・練習、 動詞のグループ分け	萬浪絵理	
7	平成27年10月14日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	5人 4人	初級文法2期ー②	辞書形、「～ことができます」、「～ま えに～」の会話	萬浪絵理	
8	平成27年10月21日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	4人 5人	初級文法2期ー③	て形、「～てくださいますか」、「～て います」、「～てから」の会話	萬浪絵理	
9	平成27年10月28日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	4人 3人	初級文法2期ー④	ない形、「～ないでください」「～と思 います」「～ないと思います」の会話	萬浪絵理	
10	平成27年11月4日 (水) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	4人 5人	初級文法2期ー⑤	た形、「～たことがあります」の会話	萬浪絵理	

計 20時間 44人

プロジェクト会議

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題	検討内容
1	平成27年5月28日 (木) 13:00～15:00	2時間	千葉市国際交流 プラザ	萬浪絵理、小野聡、高木敏 子、高岡雅子、平澤昭男、 山田由美子、鈴木恵美子	今年度の日本語クラスについて	目標共有と具体策の検討
1	平成27年9月2日 (水) 10:00～12:00	2時間	千葉市国際交流 プラザ	萬浪絵理、小野聡、高木敏 子、高岡雅子、平澤昭男、 山田由美子、鈴木恵美子	前期日本語クラスの振り返りと、後期クラスに ついて	前期クラスの振り返りを受け て、後期クラスの企画・内容 について意見交換

計 4時間

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

テーマでつながる日本語クラス(葬儀)

【第2回 27年6月27日】

第1回目の日本の葬儀に関する学習と自国との比較を受けて、第2回目は自国の葬儀に関するスピーチを行った。公民館や新聞の広報を見てきて参加した、地域住民も混ざって活発な質疑があり、最後に10分ほど、6、7人ずつのグループで膝を突き合わせた交流の時間を持った。



グループ会話クラス(第2期)

【第5回 27年12月9日】

発表の準備をした後、「私のゆめ」について、関連する画像を紙芝居のように見せながら、各自発表した。理解が難しいと思われる箇所では補足説明を加えてより深く理解できるようにした。また、他の学習者にも、発表を単に聴くだけでなく、発表者への質問をしたり、発表へのコメントを書くなど、さまざまな活動を通して日本語運用力向上を図った。今回のグループ会話クラス第2期を実施した若葉保健福祉センターがある若葉区は、千葉市内で唯一日本語教室がない区である。今回の日本語クラスには、ちらしや区役所での紹介で、若葉区やその周辺に在住の学習者が集まった。参加した支援者も区内の人を中心に参加があった。学習者からは、若葉区で日本語教室を実施してほしいという意見が多数あった。



(8) 目標の達成状況・成果

「クラスのやり方は実践的」「日本について学べた」「日本人とたくさん話せてよかった」「スピーチで自信がついた」などの学習者コメントから、日本語の学習意欲や地域社会と関わっていく意欲を高めることができたと言える。「学習者のスピーチが興味深かった」「知りたいことはどんどん広がる」などの日本人参加者コメントから、学習支援や交流を通じて日本人の多文化理解が進んでいると言え、目標は概ね達成されたと捉えられる。

クラスはいずれも日本人参加者を交えた対話と協働を特徴としたが、地域の一般市民の参加を得られたほか、新聞やケーブルテレビでも報道されたことから、多文化共生社会を目指したコミュニケーションの場としての意義や成果が地域に広く伝わり始めたと考えられる。また、今年度は1年を通して5名の学習支援者との協働でクラスの準備や運営にあたったことにより、より多面的な視点で取組を発展させることができた。

(9) 今後の改善点について

クラスに参加する外国人は前年度よりも増加したが、「もっと早くから参加したかった」などの声があることから、潜在的な学習希望者は多いと考えられる。

ひらがなタイムズやphilippine Digestなど外国人が読者となっている6誌へ、学習者募集のプレスリリースを8月に行った。うち1誌(Melcado Latino)に掲載された。より多くの外国人住民へ周知を図るため、次年度はさらに各言語コミュニティの媒体などの活用や、既に参加した学習者へのSNSでの周知依頼などをしていきたい。

取組2:外国人の社会参加を支える支援者研修

(1)体制整備に向けた取組の目標

- ・支援活動未経験者が安心と期待を持って活動を始められる。
 - ・既存の支援者の質の向上を図る。また、既存の支援者が自己の学習支援についてPDCAを回せるようになる。
 - ・新たな支援者の増加を図る。
- 上記により、地域での学習機会の拡充、外国人学習者の学習動機の向上および継続的な学習者の増加を図る。
- ・講座終了後、参加者による学習支援の具体的な内容にカリキュラム案の内容が取り込まれる。

(2)取組内容

- A. 支援者入門講座
日本語初級者へのコミュニケーション支援に関する最低限の基礎知識を知る
- B. 支援者養成講座
活動に必要な基礎知識とスキルをグループワークと演習を通じて学ぶ
- C. 支援者実践講座
学習支援活動経験者を対象とし、外国人学習者との協働セッションも含め、実践的に自身のコミュニケーションのあり方を省察する

(3)対象者

市内学習支援ボランティア希望者および経験者、空白地域での活動希望者

(4)参加者の総数 124 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 28 人

【出身・国籍別内訳】

中国	11人	インドネシア	0人	アメリカ3人、ジンバブエ1人、台湾3人、ニュージーランド1人、フランス1人、ミャンマー1人
韓国	2人	タイ	2人	
ブラジル	0人	ペルー	0人	
ベトナム	4人	フィリピン	0人	
ネパール	0人	日本	95人	

(5) 開催時間数(回数) 72時間 (全28回)

(6) 取組の具体的内容

入門講座

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年5月15日 (金) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	19人	第1期－① 日本語ボランティアとは なにか	地域の多文化化の現状と日本語ボラ ンティアの役割について	萬浪絵理	
2	平成27年5月22日 (金) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	18人	第1期－② コミュニケーションスキ ル	相手に寄り添うことや初級学習者の 発話を促すことを学ぶ。	萬浪絵理	
3	平成27年5月29日 (金) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	17人	第1期－③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容紹介と「やさ しい日本語」	萬浪絵理	
4	平成27年7月15日 (水) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流 プラザ	13人	第2期－① 日本語ボランティアとは なにか	地域の多文化化の現状と日本語ボラ ンティアの役割について	萬浪絵理	
5	平成27年7月22日 (水) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流 プラザ	13人	第2期－② コミュニケーションスキ ル	相手に寄り添うことや初級学習者の 発話を促すことを学ぶ。	萬浪絵理	

6	平成27年7月29日 (水) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流 プラザ	13人	第2期－③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容紹介と「やさしい日本語」	萬浪絵理	
7	平成27年12月1日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	17人	第3期－① 日本語ボランティアとは なにか	地域の多文化化の現状と日本語ボランティアの役割について	萬浪絵理	
8	平成27年12月8日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	16人	第3期－② コミュニケーションスキル	相手に寄り添うことや初級学習者の発話を促すことを学ぶ。	萬浪絵理	
9	平成27年12月15日 (火) 10:00～12:00	2	千葉市国際交流 プラザ	14人	第3期－③ やさしい日本語	具体的な学習活動の内容紹介と「やさしい日本語」	萬浪絵理	
10	平成28年2月20日 (土) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流 プラザ	15人	第4期－① 日本語ボランティアとは なにか	地域の多文化化の現状と日本語ボランティアの役割について	萬浪絵理	
11	平成28年2月27日 (土) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流 プラザ	14人	第4期－② やさしい日本語	相手に寄り添うことや初級学習者の発話を促すことを学ぶ。	鈴木恵美子	
12	平成28年3月5日 (土) 13:00～15:00	2	千葉市国際交流 プラザ	13人	第4期－③ コミュニケーションスキル	具体的な学習活動の内容紹介と「やさしい日本語」について	萬浪絵理	

計 18時間 182 人

養成講座

上段:受講者数
下段:外国人学習者数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年9月3日 (木) 10:00～13:00	3	千葉市国際交流 プラザ	16人	①地域の多文化化状況	地域の多文化化の現状と日本語ボランティアの役割について	萬浪絵理	
2	平成27年9月10日 (木) 10:00～13:00	3	千葉市国際交流 プラザ	16人	②コミュニケーションスキル	地域の日本語教室の役割、やさしい日本語とはなにか、よりよいコミュニケーションをするために	萬浪絵理	
3	平成27年9月17日 (木) 10:00～13:00	3	千葉市国際交流 プラザ	27人	③日本語ボランティアとはなにか	「多文化共生」についてゲームやケーススタディ、ディスカッションを通して考える。	萬浪絵理	
4	平成27年9月24日 (木) 10:00～13:00	3	千葉市国際交流 プラザ	29人 7人	④やさしい日本語で伝え合う	やさしい日本語への置き換えへのポイントを学び、学習者と実践する	萬浪絵理	
5	平成27年10月1日 (木) 10:00～13:00	3	千葉市国際交流 プラザ	26人	⑤話のネタを考える	話のアイデアマップ作成を通して会話のネタの作り方や質問方法を学ぶ。	西山陽子	萬浪絵理
6	平成27年10月8日 (木) 10:00～13:00	3	千葉市国際交流 プラザ	26人	⑥日常生活に役立つ学習支援	語彙マップを用いた活動演習と、品詞の知識	萬浪絵理	
7	平成27年10月15日 (木) 10:00～13:00	3	千葉市国際交流 プラザ	24人	⑦活動を組み立てる	「カリキュラム案」「教材例集」(文化庁)の紹介と活動を組み立てる演習	加藤早苗	萬浪絵理
8	平成27年10月22日 (木) 10:00～13:00	3	千葉市国際交流 プラザ	24人	⑧活動を組み立てる2	学習者のニーズに基づいた活動づくりの演習	田栗春菜	萬浪絵理
9	平成27年10月29日 (木) 10:00～13:00	3	千葉市国際交流 プラザ	23人 5人	⑨お喋りを学習へ	「お喋り」を「日本語学習」にする方法の紹介、グループで実践	萬浪絵理	
10	平成27年11月5日 (木) 10:00～13:00	3	千葉市国際交流 プラザ	24人	⑩今後に向けて	事例を用いたディスカッションと講座総括	萬浪絵理	

計 30時間 235人

実践講座

上段:受講者数
下段:外国人学習者数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成27年6月10日 (水) 9:30～12:30	3	千葉市国際交流 プラザ	8人 5人	第1期－①学習支援とは	日本語を教えることに依らない学習支援について講義と演習	萬浪絵理	

2	平成27年6月17日 (水) 9:30～12:30	3	千葉市国際交流 プラザ	9人 5人	第1期－②発話を助ける方法	「聴く」「待つ」スキルを学習者との協働セッションで実践	萬浪絵理	
3	平成27年6月24日 (水) 9:30～12:30	3	千葉市国際交流 プラザ	8人 5人	第1期－③対話を進めるための工夫	生活マップを用いたグループ会話での演習	萬浪絵理	
4	平成27年11月20日 (金) 9:30～12:30	3	千葉市国際交流 プラザ	9人 8人	第2期－①発話を助ける方法	発話を助けるスキルを知って学習者との協働セッションで実践する。	萬浪絵理	
5	平成27年11月27日 (金) 9:30～12:30	3	千葉市国際交流 プラザ	9人 6人	第2期－②日本語能力に合わせた会話	学習歴と日本語能力の関係について知り、学習者に応じた活動を演習	萬浪絵理	
6	平成27年12月4日 (金) 9:30～12:30	3	千葉市国際交流 プラザ	8人 8人	第2期－③対話を進めるための工夫	文化庁＜標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例（詳細版）＞を活用し、活動。	萬浪絵理	
計		18時間		88人				

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

養成講座

【第7回 平成27年10月15日】

異文化理解に関する演習の後、『「生活者としての外国人」に対する日本語教育のための標準的なカリキュラム案 教材例集』の紹介と、「ごみ捨て」をテーマにしてグループで活動を組み立てる演習を行った。



入門講座第3期

【第2回 平成27年12月8日】

「話せるようになりたい」というニーズに応えるために、どんなコミュニケーションを意識すればいいのか。たくさん話してもらえようという関わり方を実験で体感した。



(8) 目標の達成状況・成果

「ボランティアの役割は日本語を教えることだと思っていたが、それよりも大切なことがあることを知った」「他者との違いを知ることとは自分自身の許容範囲を広げることだと感じた」などのアンケートコメントから、日本語学習活動は日本語習得の機会であると同時に、対話を通して双方が学ぶ場であるということが受講者に理解されたといえる。また、講座の中で多くの意見交換やふりかえりの時間を持ったことで、多様な価値観や人生経験を持つ受講者同士が対話を通してお互いを知り、さまざまな気づきを得た。対話活動の重要性や方法について体感できる場となった

(9) 今後の改善点について

協会や地域の日本語教室で学習支援を行っているボランティアに対して、より広く対話型活動の意義と方法を伝えていく必要がある。講座の受講者は「待つ」「聴く」という姿勢によって学習者の主体的な発信とことばの獲得を促せることを理解するが、活動の定着のためにはもっと取組1の日本語クラスに協働者として参加してほしい。流れを作る工夫が必要である。

取組3:多文化理解促進

(1)体制整備に向けた取組の目標

- ・地域住民の多文化理解が促進される
- ・外国人が、居住する地域において地域住民と対話の機会が増える

(2)取組内容

- A 多文化理解講座
- B 防犯パトロール参加キャンペーン(外国人住民の町内会活動参加促進)
- C ちば市国際ふれあいフェスティバルにおける事業成果普及

(3)対象者

千葉市内外の住民、パトロール参加希望学習者等

(4)参加者の総数 97 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 _____ 人

【出身・国籍別内訳】

中国	9人	インドネシア	3人	イギリス1人、イラン1人、インド1人、ウガンダ2人、カナダ1人、コロンビア1人、台湾1人、タンザニア1人、バングラデシュ2人、マレーシア1人、ミャンマー1人
韓国	2人	タイ	2人	
ブラジル	0人	ペルー	1人	
ベトナム	1人	フィリピン	6人	
ネパール	1人	日本	59人	

(5) 開催時間数(回数) 13時間 (全8回)

(6) 取組の具体的内容

多文化理解セミナー

上段:日本人数
下段:外国人数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	取組のテーマ	概要	講師名	補助者名
1	平成27年10月31日(土) 13:30~16:30	3	千葉市国際交流プラザ	20人 17人	「外国人住民や留学生とまちの未来を語ろう」~グローバル化と多様性~	地域のグローバル化についての講話の後、グループ分かれてまちづくりに関するグループワークを行った。	神吉宇一	萬浪絵理
2	平成27年11月16日(月) 10:00~12:30	2.5	宮崎公民館	21人 9人	「え？わたしだけの思い込み?!」~世界地図で見る価値観の違い~	グループに分かれて、模造紙を囲んで「世界旅行」をしながら、出身の異なる人々が考えを伝え合った。	松尾慎	前田朝子、萬浪絵理、若井たかみ、鈴木恵美子
3	平成27年12月11日(金) 10:00~12:30	2.5	千葉市国際交流プラザ	20人 5人	「宗教と食」~豚を食べる人、食べない人~	食を入り口にしてイスラム教の教えとムスリムの生活について講義と交流で理解を深めた。	砂井紫里	萬浪絵理、三原暁子、鈴木恵美子

計 8時間 92人

防犯パトロールキャンペーン

上段:外国人参加者数
下段:支援者数

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	協力先	概要	補助者名
1	平成27年10月17日(土) 21:00~22:00	1	美浜区磯辺地区	1人 2人	磯辺中学校区育成委員会	自治会等の防犯パトロールに参加	
2	平成27年10月20日(火) 19:00~20:00	1	中央区今井地区	2人 1人	今井連合町会	自治会等の防犯パトロールに参加	
3	平成27年10月21日(水) 18:30~19:30	1	花見川区幕張町地区	2人 1人	千葉西警察署、幕張町北4丁目自治会	自治会等の防犯パトロールに参加	
4	平成27年10月26日(月) 15:00~16:00	1	稲毛区稲毛地区	1人 3人	千葉西警察署、稲毛町防犯パトロール隊	自治会等の防犯パトロールに参加	

5	平成27年10月27日(火) 15:00～16:00	1	中央区松波地区	2人 1人	千葉中央警察署、松波町会	自治会等の防犯パトロールに参加	
---	-------------------------------	---	---------	----------	--------------	-----------------	--

計 5時間 16人

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

多文化理解セミナー

【第1回 平成27年10月31日】

講師による地域のグローバル化についての講話の後、中高大生など若者層を中心に、多様な出身地域の参加者がグループで、まちづくりにおいて大切だと思う項目をランキングした。参加者同士で言葉が通じないグループでは、意見交換のまえに、まず活動内容を共有するためにさまざまな工夫をこらしてコミュニケーションを図った。



防犯パトロールキャンペーン

【第2回 平成27年10月20日】

今井地区で行われている防犯パトロールに参加した。外国人参加者は地元住民とパトロールで歩きながら交流した。歩いて目に入るものを素材にすると、衣食住から環境問題まで話が尽きず、日本語学習の機会としても有意義だった。



(8) 目標の達成状況・成果

「多文化理解セミナー」は3回ともに外国人市民との対話を取り入れたことで、コミュニケーションの中で双方がことばや文化について様々な学びを得る機会となった。特に、将来の社会を担う若者世代から「今までは英語をべらべら話したいと思っていたが、それよりも上手に伝えられるようになりたいと思った」「フィリピンのことばなどを聞いてすごく興味をもった」などの感想が挙がったことから、身近なグローバル化やコミュニケーションの本質について感じてもらうことができたといえる。

多文化理解セミナー1回目では、若い世代に焦点を当てて実施したが、以前に協会へ職場体験に来た学生や、青少年交流事業参加者などに個別に呼びかけを行い、また市立稲毛高校や多文化フリースクール、千葉大学留学生などと連携をして、多くの若い世代に参加してもらえた。

「防犯パトロールキャンペーン」では、ボランティア協力者や中央区役所地域振興課地域づくり支援室、千葉中央警察署、千葉西警察署と連携して、5つの自治会の協力を得ることができた。

「防犯パトロールキャンペーン」では、外国人市民と地元市民との間に対話の機会を作り出すことができた。参加者コメントから、外国人市民にとっては実践的な日本語学習の機会ともなったこと、日頃、外国人市民との接点がない地元住民にとっては、外国人市民を知り、コミュニケーションの取り方を考える機会となったことがわかる。

また、各取組の予告や報告記事を載せたウェブサイトは次第に閲覧数が増加した。取組に参加する人以外からも、「いつも読んでいる」という声をもらうことが多く、媒体を通じてコンセプトが伝わっていると考えられる。

(9) 今後の改善点について

防犯パトロールについては、今年度初の試行であった。企画への協力が得られた地域は限定されており、参加者は居住地とは離れた地区のパトロールに参加せざるをえなかった。恒常的な取組にしていくことと、企画を多くの町内会や外国人に周知していくことが課題であるため、今年度に引き続き、関連部署やボランティアとの連携を図る。また、防犯パトロールといっても地域によって方法や雰囲気異なることがわかった。足早に黙って廻るパトロールでは目的が果たせないため、各地域の町内会やパトロール隊とともにあり方を検討していく。

取組4:多文化協働ネットワーク会議

(1) 体制整備に向けた取組の目標

「子育て」「介護」など各分野で起こっている(または起こると想定される)多文化化に伴う千葉市における日本語教育に関する課題を共有できる恒常的な場ができる。

(2) 取組内容

地域の多文化化に伴う課題に、行政やNPOなど、さまざまな部署や機関が連携して取り組めるよう、情報交換の場を設ける。

(3) 対象者

警察、消防、労働局、市役所関連部署等、多文化化問題に直面する各関係機関

(4) 参加者の総数 23 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 _____ 人

【出身・国籍別内訳】

中国	1人	インドネシア	0人	・バングラデシュ1人、マレーシア1人、ベトナム1人 ・ ・
韓国	0人	タイ	0人	
ブラジル	0人	ペルー	0人	
ベトナム	0人	フィリピン	0人	
ネパール	0人	日本	19人	

(5) 開催時間数(回数) 2.5時間 (全1回)

(6) 取組の具体的内容

多文化協働ネットワーク会議

回数	開催日時	時間数	場所	参加者数	連携先
1	平成27年11月30日(月) 9:30~12:00	2.5	千葉市国際交流プラザ	23人	千葉県千葉中央警察署、千葉県千葉西警察署、千葉公共職業安定所、千葉市(防災対策課、国際交流課、保育運営課、保育所、中央区役所地域振興課地域づくり支援室、若葉区役所地域振興課くらし安心室、美浜区役所地域振興課地域づくり支援室、美浜保健福祉センター健康課、消防局、消防署)、NPO法人日本防災士会 千葉県北部支部
計		2.5時間		23人	

(7) 特徴的な活動風景

【平成27年11月30日】

各現場での取り組みや課題について情報共有。つぎに、千葉市の施策の重要テーマ「安全安心」であることから、「防災」をテーマに、長年日本に住む外国出身者も交えてグループで課題共有とアイデア出しをした。



(8) 目標の達成状況・成果

参加者のアンケートコメントから、地域の多文化化というテーマにおいて、様々な機関が分野を超えて情報共有することへの意義が理解されたと言える。また、「外国人市民の生の声をきいたことが新鮮だった」「外国人を支援者側として捉える発想が新鮮だった」というコメントから、当事者を交えて課題解決にあたることの重要性が共有できたと考えられる。今後、個々の課題に対して関係機関と連携して解決にあたるためのきっかけをつくることができた。

(9) 今後の改善点について

今年度初めての試みであったため、千葉市内でも外国人比率の高い区を選んで関係部署に会議参加を要請した。次回も同様とするのか、対象地域の選択が検討課題である。また、今回は「防災」をテーマとしたシミュレーションの中で情報共有をおこなったが、機関によってこのテーマと関係する度合いは濃淡があった。各機関にとって会議参加が利益となるよう、企画に更なる工夫をしたい。

空白地域対応について

(1) 目的

千葉市内で唯一日本語教室の存在しない「若葉区」に、将来的に日本語教室が立ち上がること。

(2) 取組内容

	実施概要	具体的な内容	連携先等
1	協力依頼	日本語クラス募集ちらし掲示の依頼	若葉区役所、若葉保健福祉センター、会場近隣の教会、カレーショップ、リサイクルショップ、スーパー、入国管理局千葉出張所
2	会場借用依頼	日本語クラス実施会場の期限前借用依頼をした	千葉市社会福祉協議会若葉区事務所(区役所近接の保健福祉センター内)
3	ニーズ調査	外国人が出入りしそうな近隣店舗を訪問し、コミュニケーション問題の有無を聞き取り調査を行った。★注1	子供用品リサイクル キッズM
4	支援者参加依頼1	協会登録日本語ボランティアのうち、若葉区在住者へ周知、参加依頼	若葉区在住の登録ボランティア
5	支援者参加依頼2	取組2の支援者研修において、若葉区在住者への積極的な研修参加要請	若葉区在住の支援者研修受講者
6	ネットワーク会議参加要請	取組4の協働ネットワーク会議に若葉区関係部署への参加要請 ★注2	若葉区役所、消防局
7	クラスの実施	取組1 グループ会話クラス2期を若葉区保健福祉センター会議室で実施	

★注1

リサイクルショップのオーナーによれば、「ときどきアジア系、アフリカ系の外国人が主にこどもの服を探しに来店する。日本語がほとんどわからない場合もある。共通の言葉がなくても、ジェスチャーやペンを使って会話をすれば何とかできるが、日本語が通じればもっと細かいことも話せるだろう。」

★注2

若葉区は外国人比率が1.8%(2015年12月現在)と、全国平均を上回るが、現時点では「区」に教室設置への積極的な関与はあまり望めない状況である。ネットワーク会議に若葉区の地域振興課、消防、保育所の参加を得ることができ、多文化化への気づき、横断的な取組の必要性について、感想コメントが挙がった。

(3) 目的・目標の達成状況・成果

参加外国人から、「若葉区に教室がないため、やむなく隣の四街道市の教室に通っている。若葉区に是非教室を作ってほしい」という声が複数挙がった。また、参加日本語ボランティアからは、「現在は交流協会の登録ボランティアとして協会(中央区)まで通っているが、生活圏内に教室ができれば交通費も時間もかからず望ましい」という声が挙がった。このことより、日本語教室の必要性は高いことが改めて認識された。

区役所、保健福祉センターに加え、近隣の教会や店舗にちらし掲示を依頼したが、次年度もさらに多くの店舗や教会などにクラス周知をしていく。

今回参加したボランティア以外でも、日本語教室に興味を持ち、引き続き情報を求めるボランティアは数名いた。教室開設へ向けて、協力を仰いでいく。

積極的な連携にはいたらなかったが、日本語クラスの必要性和重要性を認識している区役所職員によって、区役所・保健福祉センター窓口でクラスを紹介され、参加した学習者もいた。

このクラスでは、①興味関心に則した内容重視の言語活動 ②日本語レベルの幅への対応 ③達成感 の3点をキーとした学習活動を組み立てた。開始時はほぼ全員が初対面であったが、学習者同士、および、学習者と日本語ボランティアの間により人間関係が築かれ、日本語学習支援としても交流の場としても大きな成果があった。

(4) 今後の改善点について

空白地域で恒常的な教室開設を目指す、協会が直接運営することはできない。参加ボランティアの中には当地域での開設を望む声があったものの、年度中に具体化には至らなかった。開設にはリーダーや核となる人材が必要である。①開設の方法 ②教室活動の組み立て方法 ③学習支援者・学習者の募集 のそれぞれに関して、引き続き支援をしていく。

多文化協働ネットワーク会議に出席した若葉区関係者のコメントからも、多文化化に対する意識変容は期待できるといえる。引き続き、区役所関連書部署との連携を図っていく。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

生活者としての外国人に対する生活・社会参加に根差した日本語教育の機会拡充と内容充実を図るとともに、市民の多文化理解促進により、包括的な支援体制整備を行う。

(2) 目的・目標の達成状況

全ての取組ごとに参加者アンケートを実施した。事業の定量定性評価のためでもあるが、同時に、各参加者に参加を客観視してもらうためのツールとしても機能させた。

アンケート結果より、日本語クラスでは、学習者、支援者、交流会参加者のいずれでも参加した満足度が高かった。学習者では、日本理解や日本語運用力の向上とともに、“発信”“交流”についても、達成感が高かった。多文化理解セミナー、防犯パトロールキャンペーン、多文化協働ネットワークでの外国人市民コメントに「日本のことがよくわからない。これからもこのようなイベントでコミュニケーションが図れる機会を期待したい」「まちの安全は地域の人たちが守っていることを学んだ」「今後も自分の団地でこのような機会があれば参加したい」「さまざまな分野の担当者が参加していて、外国人を生活者(住民)として受け入れようとしていると感じた」とあり、生活・社会参加に根差した日本語教育の機会拡充と内容充実を図るといふ目標もほぼ達成できた。

いずれの取組でも日本人市民、外国人市民両者の「対話」「協働」を取り入れ、関わりの中で双方が学ぶ形とした。日本人市民コメント「学習者のスピーチが興味深かった(日本語クラス)」「知りたいことはどんどん広がる(日本語クラス)」「学習者と共に学び、解決する。今まで自分が調べて伝えてばかりいたことを反省した(支援者研修)」「私たちがあたりまえと思っていることが外国ではそうじゃなかったりする。その違いによって社会問題に対する目のつけどころが違ってくことに気づいた(多文化理解セミナー)」「たいへん友好的で、若さ明るさにあふれて良い!(防犯パトロールキャンペーン)」「言語の問題にとらわれていたが、相手を知ろうとする思いがコミュニケーションにつながる、と強く感じた(多文化協働ネットワーク会議)」からも、日本人市民の多文化理解が進んだ様子がうかがえる。

今年度は多くの機関と連携・協力して事業を実施できた。以前から警察の防犯講話事業で連携があったため、テーマでつながる日本語クラス(防犯)で、防犯に関する講話をしていただいた。空白地域「若葉区」での日本語クラスでは、公益社団法人千葉市社会福祉協議会若葉区事務所に会場協力を得た。

「多文化理解セミナー」では、将来の「地域」を担う若者世代に身近なグローバル化について感じてもらうために市立高校、大学留学生課、関係団体である多文化フリースクールに要請をし、参加してもらった。また、ちば国際コンベンションビューロー千葉県国際交流センターには後援・会場協力、宮崎公民館には会場協力を得た。

「防犯パトロールキャンペーン」では、調整段階で、町内会役員や警察、地区防犯組織に対して地域の多文化化の実情および外国人市民の統合の課題を訴えることができた。それに対して、取組の重要性に共感が示され、ボランティア協力者や中央区役所地域振興課地域づくり支援室、千葉中央警察署、千葉西警察署と連携して、5つの自治会の協力を得ることができた。

「多文化協働ネットワーク会議」では、今年度は初めての試みであったため、外国人比率の高い区を選んで関係部署に会議参加を要請し、警察署、公共職業安定所、千葉市関連部署(防災、国際交流、保育、消防、区役所地域振興、保健福祉センター保健)、NPO法人日本防災士会の参加があった。

運営委員からは成果として下記のような事業評価がなされた。

- ・地域日本語教育の新たな取り組み、特に「多文化共生社会を構築する」という目的に向かった取り組みとしては、従来の地域日本語教育と一線を画すものが多く、概ね満足できる取り組みと結果だといえる。
- ・事業開始前にはなかったさまざまな「思い」が「つながり」はじめてるように感じる。特に今年度印象的だったのは、通常他地域ではなかなか連携が難しい警察や高校などとのつながりができたこと。
- ・本事業の優れた点は、①在住外国人を支援の対象として捉えるのではなく、彼らの力を引き出し、地域住民としての社会参加を動機づけることの重要性、②共に暮らすことを求められている日本人住民の意識の改革の必要性を主眼としている点である。外国人住民の自尊感情を尊重し、日本人住民と一緒に創造的な社会を作り上げていくために外国人住民・日本人住民の双方が求められているマインドを育てることの意義は大きく、目標の背景にある理念を高く評価したい。それぞれの取り組みにおいても、学習者のエンパワーメントの促進や協働で学ぶことを重視した取り組み内容となっており、目標を達成するための活動として大いに評価できる。また、本取組みはまた、さまざまな関係団体との連携を試みている。一例として地域自治会の防犯パトロールへの外国人住民の参加などは、地域住民との接触の機会をとおして相互交流を活性化する大変意義ある活動であり、表層的な交流に終始しがちな従来の交流をより現実的な直接的な活動へと落とし込んでいく点で大変評価できる。総じて、生活者としての外国人に対する日本語教育・社会参加支援の体制は前述の観点をもとに着実に整備されており、かつ体制整備事業は新しい方向性を提案している。
- ・取組内容全般において、ボランティア、学習者、一般市民、行政など「参加者の意識を変える、気付きを促す」という観点で、計画、実施運営されていることは大いに評価できる。
- ・参加者の満足度が高いことも各取組の狙いと受け手の思いが合致している結果と考える。

運営委員からは下記の点が課題として挙げられた。

- ・事業全体で、地域住民の自主的な取組が出てくるといいなと思う。また取組4では、関係機関の「参加」が見えてきたので、「行動」につながるような動きがあるといい。
- ・全体を通して、気になる点が一点ある。後継者というか事業をチームとして動かす際の協力者というか、コーディネーターを強力に補佐するような立場の人材がまだ育成・確保できていない点。今後の大きな課題として、運営側の人材の充実が挙げられる。
- ・参加者が少ないクラス等に対する考察が、よく確認ができなかったのは残念である。課題を抽出し次に繋げていけるよう、アンケートの項目を工夫しても良いのではないかと感じた。
- ・事業の自立化に向けて、次年度以降の事業運営を工夫する必要がある。

(3) 地域における事業の効果、成果

「多文化共生政策の推進」と「外国人の社会参画の促進」のさらなる実現を目指すために、昨年度に引き続き、対話に重点を置く日本語クラスと、外国人の積極的な社会参加を支援する視点に立った支援者研修を連動させて実施した。

日本語教育の質と量の面において、当初、当地域には①多文化共生を目的とした日本語活動へのシフトが不十分、②ボランティアの高齢化と支援者不足の教室増加、という課題があった。そこで解決のために、各日本語教室に対して取組2の支援者研修への参加要請や、プロジェクトメールによる事業報告を行うことで、参加型日本語活動についての広報と巻き込みを図った。また、入門講座を複数回行い、新規のボランティアの獲得・既存のボランティアへの啓発に努めた。さらに、日本語学習者に支援者研修に参加してもらうことで、研修をより実践的な内容とし、日本語活動の質の向上を図った。日本語教育活動の質的量的な改善に向けた体制整備は進んでいるものの、本事業が目指す日本語活動の理念や方向性が既存の教室とは異なるケースも多いため、新規の学習支援者が地域で活躍していけるような対策が課題である。

「外国人の社会参加促進」という事業目的の実現のためには、地域の多文化化を受容する一般市民の意識変容が求められることから、多文化理解セミナーや防犯パトロールキャンペーンで、一般市民が外国人市民と交流する場を設けたほか、日本語クラスも閉ざされた空間にせず、一般市民が気軽に参加してみられる形をとった評価ツールであるアンケート結果から成果が読み取れる。今後は連携できた機関との協働を更に進めることで、取組を広げていく。体制整備に向けて、今年度は多文化協働ネットワーク会議を開催し、地域の多文化化に伴う課題に、行政やNPOなど、さまざまな部署や機関が連携して取り組めるよう、情報交換の場を設けた。評価ツールであるアンケートコメントから成果が認められた。今後は各機関の連携を具体的な行動につなげていくため、当事業の取組を糸口として協働を働きかけたり、各機関が持つ課題を聞き取って共に解決に当たったりしていく。

また、空白地域「若葉区」に、将来的に日本語教室が立ち上がることを目標として、若葉区で日本語クラス(対話クラス)を実施し、継続的なクラス設置へ向けた一歩とした。開設が実現するよう、今後引き続き関係機関や該当地域の学習者、学習支援者への働きかけと支援を続ける。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

市役所関連部署、日本語教室や国際交流・協力団体等に加え、自治会や警察、高校などともつながりを持てた。警察は従来からの連携をもとに、日本語クラスや防犯パトロール等の事業を実際に連携して行うことができた。この事業での連携にとどまらず、他の事業でも連携が進んだ意義は大きい。

区役所地域振興課や警察、ボランティアの協力のもと、自治会と連携して防犯パトロールキャンペーンを実施したが、外国人市民の社会参加促進にとって欠かすことができない連携である。

また、多文化理解セミナーで学校教育現場である高校と連携ができたことは、将来の地域社会を担う若い世代へ、多文化共生社会への理解を促進するうえで大きな成果の一つである。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

参加者への周知・広報として区役所や図書館などの公共施設へちらし掲示依頼をした。千葉市国際交流協会のホームページやフェイスブック、千葉市国際交流プラザ内での掲示も行った。千葉市国際交流協会登録ボランティア（日本人市民・外国人市民）や、プロジェクトメールアドレス登録者へメールでの周知も行った。また、ひらがなタイムズやphilippine Digestなど外国人が読者となっているエスニックメディアなどへ、学習者募集のプレスリリースを行った。

プロジェクトのフェイスブックでは、各取組の予告や報告記事を可能な限りアップし、参加者以外の人々にも内容と成果を伝えた。サイトは次第に閲覧数が増加した。取組に参加する人以外からも、「いつも読んでいます」という声をもらうことが多く、媒体を通じてコンセプトが伝わっていると考えられる。

また、千葉市の国際交流・協力団体が多く参加する「ちば市国際ふれあいフェスティバル」で、パネル掲示とともに事業紹介のパンフレットを作成して配布し、事業の普及を図った。

より多くの外国人住民へ周知を図るため、次年度はさらに各言語コミュニティの媒体などの活用や、既に参加した学習者へのSNSでの周知依頼などをしていきたい。

(6) 改善点、今後の課題について

平成26年度、平成27年度の各取組やその成果の広報によって一定の成果が上がったが、体制整備は未だ途上であり自立化に至っていない。今後も、対話型の日本語活動推進により、外国人の日本語力の向上と地域社会への参加意欲促進を図る。同時に、すべてのクラスを日本語ボランティアを始めとする日本人住民との協働でおこなうことにより、対話の意義を日本人市民が実感できる機会とする。また、対話型学習活動の普及促進を目的とした支援者研修を行うことにより、日本語活動の資質向上と新たな支援者の確保を図る。さらに、言語コミュニティ間に対話と協働の機会を創出し、地域における多文化理解促進と成果普及を行う。日本語教育体制整備のためH27年度事業の中で発足させた会議体を維持・拡充し、関係機関のネットワーク化をすすめ、このネットワークを活用して各取組を実施することで、協力関係を強化する。空白地域については、昨年協力を得た学習支援者に対してフォローアップを続け、自律開設を支援していく。また、日本語クラスや支援者研修の有料化の検討、対話型の日本語クラスをファシリテートできる人材の育成を行い、事業の自立化を図る。

(7) その他参考資料

- アンケート結果
- ちらし
- 事業リーフレット
- 日本語クラスのスピーチ、ドラマ、「わたしの夢」ストーリーの動画は ちば多文化協働プロジェクトフェイスブック <https://www.facebook.com/chibatabunka26/> の動画 を参照